

研究指導 博士前期課程

大学院では修士論文までの研究指導の進め方が最も重要であると考えている。研究指導教員の決定についてはおもに以下のようなプロセスを経ている。入学前指導を含めての一連の流れを以下紹介する。

- 1 入学試験時における入学志願者調書の「入学後の研究について」「希望する指導教員名（第一希望）（第二希望）」「研究計画」等を記載することになっているため、第一希望にかかっている指導教員は面接官となり、実際に受験者に研究の内容について確認等を行う。なお、受験者が武蔵野学院大学在学者でない場合には、未記入の場合もあり、この場合には研究計画により指導可能な教員が面接官として対応する。
- 2 入学前指導の一環として日本に滞在している入学許可者で春入学予定者には2月の研究発表会、秋入学予定には8月の研究発表会の案内を行っている。研究発表会に出席した入学予定者には入学後のイメージをより固めてもらい、希望する研究指導教員ともさらに研究内容を確認してもらう機会となっている。
- 3 入学前指導の一環として合格者には入学手続きが完了し、入学許可書の発送後に、「研究計画書」（0号様式）に再度研究計画を提出してもらい、研究内容の確認を行っている。また、受験時の面接において、研究内容が曖昧な場合においても同様としている。
- 4 入学時のオリエンテーション期間中に研究内容に変更がないかどうかを確認するため、希望する研究指導教員が面接を行う。研究内容に変更かおる場合には、院生と相談の上、他の教員とも面接を行う。「研究計画書」（0号様式）においても希望する研究指導教員が未記入の場合には、研究テーマや研究計画を指導できる教員が面接を行う。このような場合には教務部長及び研究科長が相談の上、面接者を指名する。
- 5 入学後の面接の結果により、研究科委員会において審議の上研究指導教員を決定する。
- 6 授業科目として「研究指導1～4（研究発表・研究倫理を含む）」が必修科目となっているため、定期的に指導を行う。

研究指導教員は修士論文の提出においては重要な役割を果たすため、院生が納得して指導を受けられるように慎重を期して決定している。

研究指導教員の決定後は概ね以下のようなプロセスを経て、修士論文の提出ができるよう研究指導を行っている。詳細はシラバスをご覧ください。

博士前期課程（春入学の場合、秋入学者は約半年ずれて行う）		
1年次	4月	研究科委員会で研究指導教員の決定
	5月	研究計画書提出
	8月	公開研究発表会①
	2月	研究報告書提出

2年次	5月	研究計画書提出
	6月	修士論文論題届
	7月	研究科委員会で修士論文の主査（1名）・副査（1名）決定
	8月	公開研究発表会②
	12月	修士論文提出（場合により11月下旬）
	2月	最終試験（口頭試問）
	3月	研究科委員会で学位認定

1年次における研究計画では1～2年という長い期間での大きな流れを考えた上で、その1年目はどのような研究を行っていくかを計画すること。従って、1年次の最初の計画は非常に重要となるため、入学前の「研究計画書」（O号様式）についても真剣に取り組んでもらいたい。なお、詳細についてはシラバスに記載されているのでご参照願いたい。

秋入学者については公開研究発表は2月となり、修士論文の提出は5月下旬となる。

本大学院は Semester 制度のため、毎年8月と2月に研究発表会が開催されており、平成23年度以降は博士後期課程の設置に伴い、博士後期課程の研究発表を博士前期課程の院生が聞くことによって大きな刺激を受ける良い機会となっている。また、『研究倫理&研究費の適正使用のためのハンドブック』『研究倫理&論文執筆の指針 [大学院生向け]』は「学識を教授するために必要な能力を養うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供（プレFD）」は大学院HPに掲載しているので適宜活用してください。なお、プレFDは博士後期課程の大学院生を対象にしているが、博士前期課程の院生についても可能な限り実行している。インターンシップについては本学就職部にご相談下さい。